



令和6年 神無月

# 城北中だより

## 城北中学校教育目標

- 思いやりのある生徒
- 真剣に学ぶ生徒
- 健康な生徒

## さいたま市新人体育大会終了 ～涙の向こうにあるものは…～

校長 和田 卓也

10月も半ばとなり、朝晩が涼しく感じられる日が増えてきて、秋の到来を感じられるようになってきました。そんな中、皆様のご協力もありさいたま市新人体育大会も無事終了することができました。見事、市の大会を勝ち抜き、県大会への出場の切符を勝ち取った生徒や、惜しくもあと一步届かなかった生徒、負けてしまったものの、自分の成長に対して確かな手ごたえを感じた生徒…などなど、様々な「一生懸命な姿」に出会えた1週間でした。そんな中でも、今回、特に印象に残ったことは、試合後、涙を流す生徒(チーム)に多く出会ったこと。涙は流さずとも悔しい思いをした生徒も、今まで以上に多かったように感じました。

さて、そんな涙を流した(悔しい思いをした)日から、早くも2週間が過ぎようとしています。負けて悔しいのはいわば当然…大切なのはその思いを次にどう繋げるかということ。先日、たまたま運動部部長が集められている場面に遭遇できたので、ちょっと飛び入りで話をさせていただきました。生徒が流した涙の向こうにどんな姿を見せてくれるのか。また、最後の学総でどんな涙を流すのか。チーム城北の更なる成長を期待しています。



## 部活動検討委員会(仮称)を立ち上げます。

昨今の学校の部活動に対する社会の動き(教員の働き方改革・部活動の地域移行等)については、皆様ご存じのことと思います。これに合わせ、本校においては「持続可能な部活動の在り方」について検討するとともに、必要に応じて保護者・地域の皆様に情報提供並びにご協力をお願いしてきたところです。しかしながら、現状において、「部活動顧問数と部活動数のバランス」について、大きな課題が残っております。「持続可能な部活動」という観点から申し上げますと、私見ではありますが、

「1部活動 2人顧問」の体制が最低限でも必要であると考えております。その考え方から言うと本校の部活動数は【部活動を担当できる人数(教職員や部活動指導員等)÷2】が基準となります。

現在、本校の状況(基準顧問数より部活動が多い。人数が集まらない部活動がある。等)を踏まえると、既存の部活動の廃止(新設)等についても検討していく段階に入ってきたと考えております。

そこで、これまで部活動の意義(目的)というところから、教育委員会にも確認を行い、本校の部活動の状況について点検、確認を行っているところです。その過程の中で、まずは、組織的なところから見直していく必要があることが分かってきました。具体的には、本校においては現在、部活動の廃部・新設等について、生徒会規約によって定められています。「生徒会活動」は教育課程(授業として行っている活動)に位置づいておりますが、部活動は教育課程の枠外での活動であるため、生徒会規約に則り進めるのではなく、教職員等を中心とした別組織の中で検討する体制を整える必要があるということです。

つきましては、まずは、教職員を中心とした部活動検討委員会(仮称)を今月中に立ち上げ、来年度以降の部活動の在り方について検討を始めたいと考えております。ちなみに今年度については、①本校における部活動の目的(意義)の再確認 ②部活動の廃部、新設等に対する規定の明確化 等に取り組む予定です。なお、部活動については、生徒たちの意見は当然のこと、PTA会長をはじめとする保護者の皆様並びに学校運営協議会の皆様のご意見を頂きながら、総合的な見地から判断したいと考えておりますので、皆様方のご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 「明日（あす）も 進む いのちの日」（9月30日）の取組について

平成23年9月29日にさいたま市立小学校の児童が、駅伝の課外練習中に倒れ救急搬送された後、翌30日に死亡するという大変悲しい事故が起きました。さいたま市では二度と悲しい事故が起きないように「体育活動時等における事故対応テキスト～ASUKAモデル～」を作成しました。令和4年度から、毎年9月30日を「明日（あす）も 進む いのちの日」と制定しています。

城北中学校では、保健体育の授業において、救命救急や応急手当の方法、AEDの使い方を学んでいます。

